

○『大無量寿経(上巻)』 勝行段

不可思議の兆戴永劫において、菩薩の無量の徳行を積植して、欲覺、瞋覺、害覺を生ぜず。欲想、瞋想、害想を起こさず。色、声、香、味、触、法に著せず。忍力成就して衆苦を許らず。少欲知足にして、染、恙、痴なし。三昧常寂にして、智慧無碍なり。虚偽、諂曲の心あることなし。和顔愛語にして、意を先にして承問す。勇猛精進にして、志願倦むことなし。専ら清白の法を求めて、もって群生を恵利しき。三宝を恭敬し、師長を奉事す。大莊嚴をもって衆行を具足し、もろもろの衆生をして功德を成就せしむ。

意識

はかり知ることのできない長い年月をかけて、菩薩(法蔵菩薩)が限りない修行に励み、功德を積んだのである。食りの心や怒りの心や害を与えようとする心を起こさず、また、そういう想いを持ってさえいなかった。すべてのものに執着せず、どのようなことにも耐え忍ぶ力をそなえて、数多くの苦をもものともせず、欲は少なく足ることを知って、貪り・怒り・愚かさを離れていた。そしていつも三昧に心を落ちつけて、何ものにもさまたげられない智慧を持ち、偽りの心やこびへつらう心はまったくなかったのである。表情はやわらかく、言葉はやさしく、相手の心を汲み取ってよく受け入れ、雄々しく努め励んで少しもおこたることがなかった。ひたすら清らかな善いことを求めて、すべての人々に利益を与え、仏・法・僧の三宝を敬い、師や年長のものに仕えたのである。その功德と智慧のもとにさまざまな修行をして、すべての人々に功德を与えたのである。

○念仏者の生活規範

- ・少欲知足 → 『欲を少なくして足ることを知れ』という意味
- ・和顔愛語 → 和やかで温和な顔つきや言葉、穏やかで、親しみやすい振る舞いのこと
- ・帰依三宝 → 仏・法・僧に帰依すること